

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（中学校用）

都道府県名	千葉県
-------	-----

I 学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	千倉町立千倉中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	4	4	1	12	29
生徒数	109	125	121	2	357	

II 研究の概要

1. 研究主題

基礎的・基本的な内容の定着を工夫し、自ら学び、自ら考え、判断し、よりよく問題を解決する力の育成を図る。

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

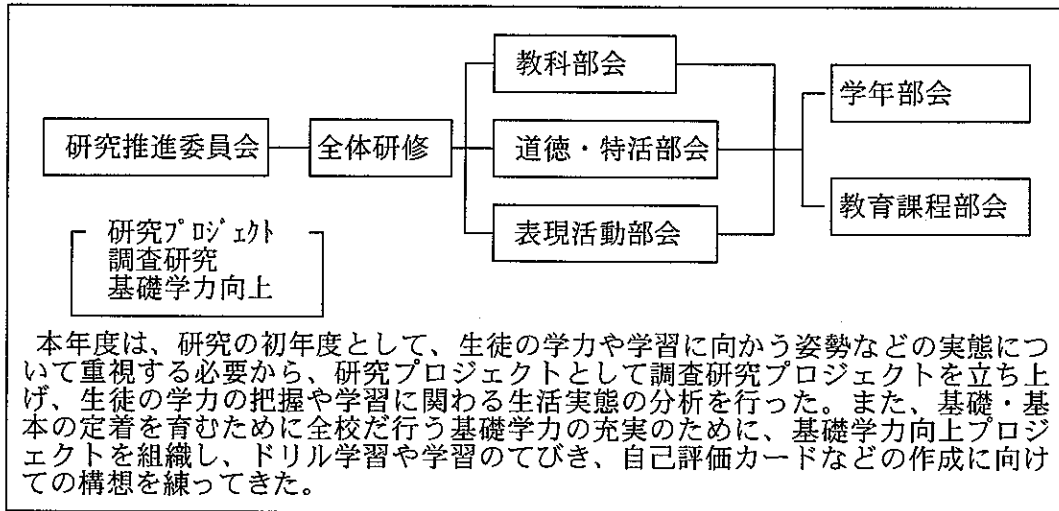
全学年・全教科において実施（教育課程全般）
 本校の学校教育目標の具現化を図るためには、学習の基盤となる基礎・基本の確実な定着が必要である。また、変動の激しい社会に対応できるための「生きる力」を育むためには生徒の興味・関心に基づいた学習を展開していくことが大切である。この基礎・基本の定着と課題解決的な学習をバランスよく展開していくことで、意欲的に学習する生徒が育まれると本校は考える。そこで、本校では学習の基礎・基本を根としてとらえ、日常の実践の場である授業、特活や道徳を幹、その発表の場としての総合的な学習や集会等の表現活動を花と考えそのサイクルを通して生徒の意欲化を図ることを目標とした。本年はその中でも根と幹の部分についての実践を中心に研修を積み、特に基礎的・基本的な学習内容の定着と授業における学習形態や指導方法について研修を進めていく。
 このような学力についての考えから、目指す生徒像として、生きる力の中でも特に問題解決力のある生徒の育成を目指そうと考える。そのために、教科学習において、基礎・基本の定着のためのきめ細かな指導を行い、学習のサイクルとしてのO（目的）・P（計画）・D（実行）・S（反省）を意識した学習を展開する。また、行事や集会、また、総合的な学習の時間においても、このOPDSの活用をはかることにより、様々な場面における活用を進める。また、すべての学習の土台となる学びの基礎・基本の向上も確かな学力の育成には必要であると考え、そのために、次の3つの観点を研究をねらいとする。
 ①問題解決の基本パターン（OPDS）の活用を図ることにより、問題解決力を高める。
 ②教科等における、基礎・基本の確実な定着に向けての指導方法・授業改善に努める。
 ③自ら学ぶための力の育成（態度とスキル）をはかる。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<ul style="list-style-type: none"> ・研究の構想、2ヵ年間の研究計画の立案 ・研究主題、研究仮説等の策定とそれに基づく実践的研究の推進 ・1年次の研究の評価（成果と反省）及び次年度の評価・年間計画の見直し
--------	--

平成16年	実践的研究の集積と分析 2ヵ年間の実践研究のまとめと成果の発表
-------	------------------------------------

(3) 研究推進体制



Ⅲ 平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

本年度は、研究の構想を練るために、学力や基礎・基本について研修の機会を多く持ち、目指す学力向上への取り組みを3つの視点で捉え、狭い視野で学力向上をとらえるのではなく、学習の基盤、授業改善、生きる力の学力を高めるための一貫した取り組みを進めるための土壌ができた。また、本校の研究主題を念頭に置いた授業研究の実施や基礎学力定着のためのドリル学習の試行や、本校の学習面での実態把握から学習の基盤の定着の取り組みも必要であることが共通理解された。

実践としては、理科の教科学習において、ワークシートを活用した授業展開を継続して行い基礎・基本の定着を図る取り組みを行った。

また、課題解決のサイクルとしてのO（目的）・P（計画）・D（実行）・S（反省）を意識した研究授業を各教科で行い、教科の特性に応じた課題解決のサイクルの活用についての方向性を得ることができた。

2. 今後の課題

全体的な構想は見えてきたが、各教科における研究の焦点化はまちまちであり、今後、教科における学力向上のための組織的・継続的な取り組みを進めていくことが大切である。また、総合的な学習など問題解決的な学習を深めるために年間を通した学習全体の見直しや学習サイクルの活用、テーマや課題追求の方法など教師の側からアプローチのあり方を実践し研究していくことが課題となる。

また、教育課程全体を通して、学校教育目標を達成することを学力向上ととらえる観点から、今後も選択教科や様々な学校教育活動を通して学力を向上させる取り組みを探ることが必要と考える。

基礎から問題解決力の育成までバランスよく育むことを目標と掲げていることより、研究の焦点が定まらなくなる可能性もあるが実践を通してその成果や課題について把握して改善を進めていきたい。また、次年度がこの研究の最終というわけではなくその後の子どもの学力向上に向けて特色ある学校づくりの出発点となる取り組みをして行きたいと考える。

Ⅳ 学力把握のための学校としての取組

- ①定期テスト
- ②学力調査（9月に第2学年で実施）
- ③学習習慣や学習環境調査（9月実施）
- ④学力向上のための調査（12月に第1学年、第2学年で実施）

- ⑤学習調査（2月、2年の国語で実施）
- ⑥学区内小学校卒業の生徒についての学力データの借用（小6段階での県標準学力テストの結果）

V フロンティアスクールとしての研究成果の普及

平成15年8月5日 地区研究主任会議にて本校の研究の構想について発表
 平成16年10月22日に公開授業の予定

◇ 次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T. Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無